

年度末評価結果

梓川高等学校

本校では、教育目標及び年度重点目標を設定し、より良い学校づくりを推進しています。年度重点目標の具現化に向けた日常の教育活動について、自ら点検をし、改善すべき点を明らかにするとともに、その改善策、更なる発展をめざしての向上策を作成し、教育実践をしています。

今年度の評価及び次年度に向けた改善策・向上策は次のとおりになっています。より具体的な対策については、校内担当分掌を中心に鋭意検討しております。広く皆さんからご意見をいただき、本校の教育活動の充実と発展を図っていききたいと思います。ご意見等ございましたら学校までお寄せください。

□ 教育目標

- (1) 自主性・協調性を培い、自ら学び自ら考える力を伸ばす。
自主的・自律的に学校生活に取り組む校風、態度を形成する。
生徒個々の学習意欲を高め、学習習慣を定着させる。
基本的生活習慣の確立を図り、倫理観や規範意識を高める。
- (2) 一人ひとりを大切にし合い、夢や希望を育み、個性を伸ばす。
基礎・基本を確実に習得し、創造性を高め、個性を伸ばす。
夢や希望、能力・適性、進路に応じた目標をもち、自己実現を図る。
向上心をもって共に学び合い、思考力、判断力、表現力を伸ばす。
- (3) 心豊かで、たくましく生き抜く人間となる。
幅広い学習体験や特別教育活動に取り組み、人間性と社会性を育む。
人間尊重の精神、信頼と友情に基づく連帯感を育む。
地域社会の要望に応え、社会に貢献できる人間となる。

□ 本年度重点目標

- (1) 基礎・基本の確実な定着と個性の伸長を図る。
生徒一人ひとりの能力、適性、興味・関心に応じた習熟度別授業・少人数授業を実施するとともに、補習授業及び個別指導の充実を図る。
生徒一人ひとりが学習目標・進路目標をもち、自己の課題に意欲的に取り組むように努める。
体験的な学習、問題解決的な学習の充実を図る。
授業・学習指導法の改善を図るために校内研修を行う。
- (2) 創意ある教育活動、活力ある学校づくりに努める。
コース制（人文社会、自然科学、福祉コミュニケーション、情報ビジネス）の充実と発展に努めるとともに、特色ある教育課程の編成を行う。
「総合的な学習の時間」の充実を図るために、継続して研究・実践を行う。
生徒の希望や願い、夢を受け止め、対応できる生活指導・相談体制を確立する。
学校自己評価を実施し、教育活動の向上及び教育課程の改善に努める。
同僚性を確保し、教職員の教育的力量を高め、創意あり活力ある学校づくりに努める。
生徒・保護者・教職員懇談会の充実を図り、より良い学校づくりに努める。
生徒の自主活動に適切な助言と指導を行い、責任感・主権者意識を育てる。
生徒が生き生きと活動できる学習環境を整える。
- (3) 開かれた学校づくりと家庭・地域との連携協力を図る。
学校評議員制を推進するとともに、梓川高校教育懇談会の開催と充実を図る。
本校の教育活動に関する情報や資料の公開・提供に努める。
地域の人材及び施設等の活用をするとともに、「学校支援人材バンク」の充実を図る。
「地域モニター」との連携協力を図る。
地域住民を対象とした公開授業に積極的に取り組む。
学校支援組織「梓川高等学校を支える会」の充実を図る。
波田中学校をはじめとする町内5校と交流を推進する。
校外清掃活動、町内の福祉施設等でのボランティア活動を推進する。

□ 年度末評価

【総合評価】

コース制の完全実施により、特長ある教育課程の編成を行うとともに、習熟度別授業・少人数制授業・補習等により、基礎・基本の定着に成果を上げることができた。生徒の目的意識を向上させ、生徒の実態・要望を踏まえた魅力あるコースとするために、研究・検討する余地がある。

公開授業・授業アンケート（評価）・研修等を実施し、授業改善に取り組んでいるが、同僚性を確保し、教職員の教育的力量を高め、創意あり活力ある学校づくりを一層推進する必要がある。

生徒の基本的な生活習慣を確立させるとともに、生徒会と連携協力をすすめて、共により良い学校づくりを推進していく必要がある。

中学生・地域等への情報提供については、ホームページの更新、E-mail通信の配信、地域回覧板等のメディアを利用すると共に、教育懇談会等を実施し、時宜に応じて実施できた。今後内容の充実を図ると共に、双方向のコミュニケーションを図っていく必要がある。

【本年度重点目標の評価】

本年度の重点目標					
(1) 基礎・基本の確実な定着と個性の伸張を図る。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>本年度の成果と課題</th> <th>次年度への改善策・向上策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>習熟度別授業・少人数制事業・補習等により、基礎・基本の定着に成果を上げている。しかし、目的意識のある生徒と一部の無目的の生徒の学習への取組に画然たる差が生じている。 各教科の学習目標を生徒に明示するとともに、学習目標及び進路目標の早期の確立が求められる。</td> <td>シラバスを明示し、学習の目的・意義を理解させ、学習の効率的な方法を身につけさせるとともに、学習意欲を喚起させる具体的実践事項を定め、指導を行う。また、1年次より体験的な学習などを充実させるとともに、系統的な進路指導を行う。 特に向上心のある生徒の要望に応え、補習授業・個別指導の充実させ、生徒の自己実現を促す。 授業改善に向け、同僚性を確保し、校内研修の充実を図る。</td> </tr> </tbody> </table>	本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策	習熟度別授業・少人数制事業・補習等により、基礎・基本の定着に成果を上げている。しかし、目的意識のある生徒と一部の無目的の生徒の学習への取組に画然たる差が生じている。 各教科の学習目標を生徒に明示するとともに、学習目標及び進路目標の早期の確立が求められる。	シラバスを明示し、学習の目的・意義を理解させ、学習の効率的な方法を身につけさせるとともに、学習意欲を喚起させる具体的実践事項を定め、指導を行う。また、1年次より体験的な学習などを充実させるとともに、系統的な進路指導を行う。 特に向上心のある生徒の要望に応え、補習授業・個別指導の充実させ、生徒の自己実現を促す。 授業改善に向け、同僚性を確保し、校内研修の充実を図る。
本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策				
習熟度別授業・少人数制事業・補習等により、基礎・基本の定着に成果を上げている。しかし、目的意識のある生徒と一部の無目的の生徒の学習への取組に画然たる差が生じている。 各教科の学習目標を生徒に明示するとともに、学習目標及び進路目標の早期の確立が求められる。	シラバスを明示し、学習の目的・意義を理解させ、学習の効率的な方法を身につけさせるとともに、学習意欲を喚起させる具体的実践事項を定め、指導を行う。また、1年次より体験的な学習などを充実させるとともに、系統的な進路指導を行う。 特に向上心のある生徒の要望に応え、補習授業・個別指導の充実させ、生徒の自己実現を促す。 授業改善に向け、同僚性を確保し、校内研修の充実を図る。				
(2) 創意ある教育活動、活力ある学校づくりに努める。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>本年度の成果と課題</th> <th>次年度への改善策・向上策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コース制の完全実施により、特色ある教育課程の編成をした。生徒の実態・要望を踏まえ、各コースの目的・内容を再検討し、その充実を図る余地がある。 前向きな高校生活を送る生徒が多数を占める中、基本的な生活習慣の欠如した生徒がいる。 生徒・保護者・教職員懇談会を開催し、ともに「より良い梓川高校」を目指す取組が始まった意義は大きい。</td> <td>重点目標の焦点化を図り、具体的な実践項目を教職員の共通理解のもとに設定し、実行する。 教育課程委員会を中心に、コース制について研究・検討する。教育課程・学習指導の面から2学期制について検討する。 生徒の基本的な生活習慣の確立に向け、具体的な実践項目を設定し、実践する。 「梓川高校をより良くする」ために、生徒と共有できる目標を設定し、生徒会との連携・協力を進める。</td> </tr> </tbody> </table>	本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策	コース制の完全実施により、特色ある教育課程の編成をした。生徒の実態・要望を踏まえ、各コースの目的・内容を再検討し、その充実を図る余地がある。 前向きな高校生活を送る生徒が多数を占める中、基本的な生活習慣の欠如した生徒がいる。 生徒・保護者・教職員懇談会を開催し、ともに「より良い梓川高校」を目指す取組が始まった意義は大きい。	重点目標の焦点化を図り、具体的な実践項目を教職員の共通理解のもとに設定し、実行する。 教育課程委員会を中心に、コース制について研究・検討する。教育課程・学習指導の面から2学期制について検討する。 生徒の基本的な生活習慣の確立に向け、具体的な実践項目を設定し、実践する。 「梓川高校をより良くする」ために、生徒と共有できる目標を設定し、生徒会との連携・協力を進める。
本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策				
コース制の完全実施により、特色ある教育課程の編成をした。生徒の実態・要望を踏まえ、各コースの目的・内容を再検討し、その充実を図る余地がある。 前向きな高校生活を送る生徒が多数を占める中、基本的な生活習慣の欠如した生徒がいる。 生徒・保護者・教職員懇談会を開催し、ともに「より良い梓川高校」を目指す取組が始まった意義は大きい。	重点目標の焦点化を図り、具体的な実践項目を教職員の共通理解のもとに設定し、実行する。 教育課程委員会を中心に、コース制について研究・検討する。教育課程・学習指導の面から2学期制について検討する。 生徒の基本的な生活習慣の確立に向け、具体的な実践項目を設定し、実践する。 「梓川高校をより良くする」ために、生徒と共有できる目標を設定し、生徒会との連携・協力を進める。				
(3) 開かれた学校づくりと家庭・地域との連携協力を図る。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>本年度の成果と課題</th> <th>次年度への改善策・向上策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域の方々に本校の教育活動に対する理解いただき、支援を得ている。外部の意見聴取とその反映について、システムは構築されているが、機能していない面もある。 情報提供においては、ホームページの更新、中学校向けE-mail通信・地域回覧板の発行等新規に取り組んだ。 校外清掃活動では、本年度初めてPTAとの合同清掃を実施した。</td> <td>外部の意見を反映させ学校改革に取り組んでいるが、より双方向的なコミュニケーションを発展・充実させる。そのためにシステムについて、再検討を行う。また、時宜に応じた情報提供・発信を行う校内態勢を確立する。</td> </tr> </tbody> </table>	本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策	地域の方々に本校の教育活動に対する理解いただき、支援を得ている。外部の意見聴取とその反映について、システムは構築されているが、機能していない面もある。 情報提供においては、ホームページの更新、中学校向けE-mail通信・地域回覧板の発行等新規に取り組んだ。 校外清掃活動では、本年度初めてPTAとの合同清掃を実施した。	外部の意見を反映させ学校改革に取り組んでいるが、より双方向的なコミュニケーションを発展・充実させる。そのためにシステムについて、再検討を行う。また、時宜に応じた情報提供・発信を行う校内態勢を確立する。
本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策				
地域の方々に本校の教育活動に対する理解いただき、支援を得ている。外部の意見聴取とその反映について、システムは構築されているが、機能していない面もある。 情報提供においては、ホームページの更新、中学校向けE-mail通信・地域回覧板の発行等新規に取り組んだ。 校外清掃活動では、本年度初めてPTAとの合同清掃を実施した。	外部の意見を反映させ学校改革に取り組んでいるが、より双方向的なコミュニケーションを発展・充実させる。そのためにシステムについて、再検討を行う。また、時宜に応じた情報提供・発信を行う校内態勢を確立する。				

【項目ごとの評価】

- ・「評価項目」の数字は、重点目標の項目番号。
- ・【次年度への改善策・向上策】の「 」は研究・検討の中心となる校内組織を表す。

領域	対象	評価項目	評価の観点	本年度の成果と課題	次年度への改善策・向上策
教育活動	教育課程	(1) 個に応じた授業	生徒一人ひとりの能力、適性、興味・関心に応じた習熟度別授業・少人数授業を実施しているか。	英数の習熟度別授業やコース等での少人数制授業は、効果をあげている。しかし、ホームルーム単位等の授業において、生徒の実態から指導上の問題がある。	来年度、教育課程の編成とあわせ、職員定数を考慮し、選択科目の開講講座を検討し、可能な範囲での少人数制授業を実施する。 進学補習などを実施し、向上心のある生徒の要望に応える。 教育課程委員会・学習指導委員会・学習係・教科主任会
		(2) コース制の充実	生徒の実態及び地域の要望を踏まえ、コース制の充実と発展に努めているか。	コース制導入2年目、はじめて2・3学年においてコース別授業が行うことができた。また、コース制について中学生及び保護者から関心もってもらっている。 生徒の実態や要望及び地域の声を聞きながら、より充実したコース制にする余地がある。	年度内に3年生及び職員にコース制に関するアンケートを実施し、実態把握を行う。 次年度早々、教育課程委員会を中心に、コースの意義及び各コースの目的を検討し、全職員で本校に相応しいコース制を目指す。 創意ある学校経営支援事業・個性ある学校づくり事業等の各事業などを積極的に活用し、コース制の充実と発展を図る。 教育課程委員会内に各コース責任者を置き、体制を整備する。 教育課程委員会・教務係

教育活動	進路指導	(1) 進路目標の確立と自己実現	生徒一人ひとりが進路目標をもち、自己の課題に意欲的に取り組むように指導され、その体制が確立されているか。	体験報告会・説明会・企業見学などを通して、目的意識をもち、進路を実現する生徒が増えている。 目標のない生徒への対応、基礎学力の充実、1年からの系統だった指導などが求められる。	学年との連携を密にし、1年次から体験学習や見学等を含め、動機付けを図る。 進学対策補習をはじめ、基礎学力の充実を図る。 進路状況について、家庭に周知するとともに、連携・協力を図る。 進路指導係・学年
	生徒会クラブ	(2) 自主性を育てる指導	生徒の自主活動に適切な助言と指導を行い、責任感・主権者意識を育てられているか。	日常的問題に目を向けるなど、生徒会活動は活性化している。 生徒会と職員会との情報の共有・連携のあり方など検討の余地がある。	「梓川高校をより良くする」ために、生徒会との連携・協力を進めるとともに、生徒会への指導助言にあたる。 生徒会の活動状況等について、時宜に応じて職員との共通認識を図る。 生徒会係
学校運営	組織運営	(2) 学校自己評価の実施	学校自己評価を実施し、教育活動の向上及び教育課程の改善が行われているか。	本年度より本格的な取組であるが、これまでの実践をもとに、年間計画・システムを構築し、中間評価・授業アンケート（授業評価）・外部評価等を実践してきた。県内には到達度は高いと思われるが、創意ある学校自己評価を行うために、研究及び検討の余地がある。 学校自己評価の意義・目的について、職員との共通理解を図る必要がある。	本校に相応しい学校自己評価活動を行うために、一層の研究・検討と実践を行う。 重点目標の焦点化を図り、具体的な実践項目を教職員の共通理解のもとに設定する。また、時宜に応じて、職員会の議題とし、教職員の共通理解を図る。 生徒と共有できる目標を設定し、共に「より良い梓川高校」を目指す。 学校自己評価委員会・教務係・生徒会係
		(2) 同僚性の確保と教育的力量の向上	同僚性を確保し、教職員の教育的力量を高め、創意あり活力ある学校づくりに努めているか。	教科により差はあるが、教科内において教材研究等を行い、教育的力量を高めている。 しかし、日常的な多忙化と相俟って、教職員相互のコミュニケーションがやや不足している。	教科指導における専門家集団として教科会を位置づけながら、個々の教育力を高める。また、校内研修の充実を図る。 教務係
	地域との連携	(2) 生徒・保護者・教職員懇談会の充実	生徒・保護者・教職員懇談会の充実を図り、より良い学校づくりが推進されているか。	三者がそれぞれの立場から意見交換を行う機会ができた意義は大きい。まだ著に付いたばかりであり、今後の会の充実を図る。	三者懇談会の意義・目的を再確認し、正式な実施要項を策定する。また、テーマ及び内容について、事務局が中心となって、生徒会執行部・PTA役員と検討していく。 生徒・保護者・教職員懇談会事務局
		(3) 学校評議員制の運用と教育懇談会の充実	学校評議員制の運営が円滑に行われているか。	学校評議員の意見・提言について、その反映のシステムは構築されているが、機能は不十分な面もあった。	外部の意見聴取とその反映について、教職員の共通理解を図り、双方向的なコミュニケーションを高める。 学校評議員運営委員会
			梓川高校教育懇談会の開催と充実が図られているか。	学校概要・現況説明・授業見学等を通じ、本校の取組について、ご理解いただき、本校に対する支援体制をつくる方向性を見出すことができた。 他の校務と重なったこともあるが、本校職員の参加が少なかった。日程等の調整も必要である。	職員の参加態勢を確立するために、日程等の調整をはじめ、検討をする。 学校評議員運営委員会
(3) 情報提供	本校の教育活動に関する情報や資料の公開・提供がなされているか。	ホームページの更新、E-mail通信「梓川高校通信」の創刊（月1回送信）を行っている。中学校からは好評を得ている。内容の充実を図りたい。 地域回覧板「こんにちは、梓川高校です」を創刊した（波田・梓川・山形・安曇・奈川各町村）。時宜に応じた情報提供及び双方向のコミュニケーションを図りたい。	各分掌・クラブ顧問等が、教育活動に関する情報及び原稿提供を教務係・情報処理係に行うなど、全職員の協力を図る。 教務係・情報処理係		

地域との連携	(3)	地域の教育力の活用	地域の人材及び施設等の活用をするとともに、「学校支援人材バンク」の充実が図られているか。	波田町各施設をはじめ、本校の教育活動にご協力いただいている。「学校支援人材バンク」の活用について検討を要する。松本短期大学との連携では、短大に2年1単位の授業及びホームヘルパー2級実技講習にご協力いただいた。しかしながら、発展的建設的な連携の強化について、本校の対応が不十分であった。	波田町各施設及び松本短期大学との連携・協力を推進する。教育課程委員会・各教科「学校支援人材バンク」について、本校の教育実践との有効性あるあり方を検討する。教務係
	(3)	「地域モニター」の活用	「地域モニター」との連携協力が図られているか。	地域モニターには梓川高校教育懇談会に参加いただいて意見聴取を実施したが、その目的を達成するための連携・協力について、具体的な取組が不十分であった。	地域モニターとの連携・協力の具体的取組を検討し、実行する。生活指導係
	(3)	公開授業の開催	地域住民を対象とした公開授業に積極的に取り組めたか。	公開授業を計画し、公式ホームページ・ダイレクトメール・マスコミ等を通じ紹介したが、参加者が少なかった。	公開授業のあり方の検討に加え、開かれた学校づくりの視点から検討をする。教務係
	(3)	「梓川高校を支える会」の充実	学校支援組織「梓川高等学校を支える会」の充実が図られているか。	各首長のご理解の下に、正式に、「支える会」が発足した意義は大きい。本校の現状をご理解いただきながら、会の充実を図る。	本校の現状の一層のご理解をえながら、地域との連携を深め、教育活動をととして地域への貢献を図る。教務係
	(3)	町内5校との交流	波田中学校をはじめとする町内5校と交流を推進しているか。	5校交流会を開催し、相互の交流を図った。可能な範囲で波田中学校の公開授業への参加をしている。	特に波田中学校とは親睦を深める域にとどまらずに、教科研修等を検討していきたい。教務係
	(3)	地域への貢献	校外清掃活動、町内の福祉施設等でのボランティア活動が行われているか。	校外清掃の年間計画を立案し、実行している。また、本年度PTA・生徒会合同校外清掃を実施した。JRC部はボランティア活動に取り組んでいる。	波田町及び地域住民の要望等を受け止め、本校として可能な活動を検討し、実践する。清掃美化係、生徒会係、JRC部顧問
校内研修	(1)	授業・学習指導法の改善	研修会及び公開授業は、授業・学習指導法の改善を図るための研修となったか。	公開授業週間の設定、授業アンケート実施、授業改善・教育改革についての校内研修を実施。	日常的な相互の教育実践を交流し、力量を高める。また、同僚制を確保し、校内研修の充実を図る（本校教職員の課題提起あるいは実践に基づく研修等）。教務係
	(2)	生徒理解	生徒の希望や願い、夢を受け止め、対応できる生活指導・相談体制を確立するための研修となったか。	学校カウンセラーによる研修を実施。	生徒指導への反映を考え、1学期に研修を行う。相談室係・教務係
施設設備	(2)	学習環境の整備	生徒が生き生きと活動できる学習環境が整備されているか。	教室内の清掃・美化を中心とした学習環境を高めたい。情報機器関係をはじめ施設設備の充実が望まれる。	日々の清掃の一層の強化と生徒会整美委員会との連携を図る。清掃美化係 施設設備に関しては、予算等を考慮しながら、計画性をもって整備に努める。教務係・教科主任会